

甲冑の片付け方 マニュアル



！注意事項

**甲冑は、非常に高価なものです。
丁寧に取り扱いますようお願いいたします。**

- 万が一、破損があった場合には、使用者の責任と負担により、修理・修復を行い、原状回復をお願いします。
- 修理・修復が困難な状況まで破損している場合、使用者に対し、相当と認める額を請求する場合があります。
- 白石市は甲冑等の使用に係る損失補償等の一切の責任を負いませんので、ご了承ください。
- また、甲冑等の使用によって生じた事故等に関しては、使用者の責任において処理するようお願いいたします。

★持ち運ぶ際、甲冑の上には何も乗せないでください。

★甲冑を重ねて乗せる、逆さまに置くことも厳禁です。

★使用後は、使用状況の報告をお願いいたします。



◀ 報告フォームはこちらから！
使用状況が分かる写真の添付もお願いします。

**次に使う方が気持ちよく使用できるように、
甲冑等を長く綺麗に使用できるように、
皆様のご協力をお願いいたします。**

まずはじめに、備品の確認を！



前立て*には
は様々な形
があります。



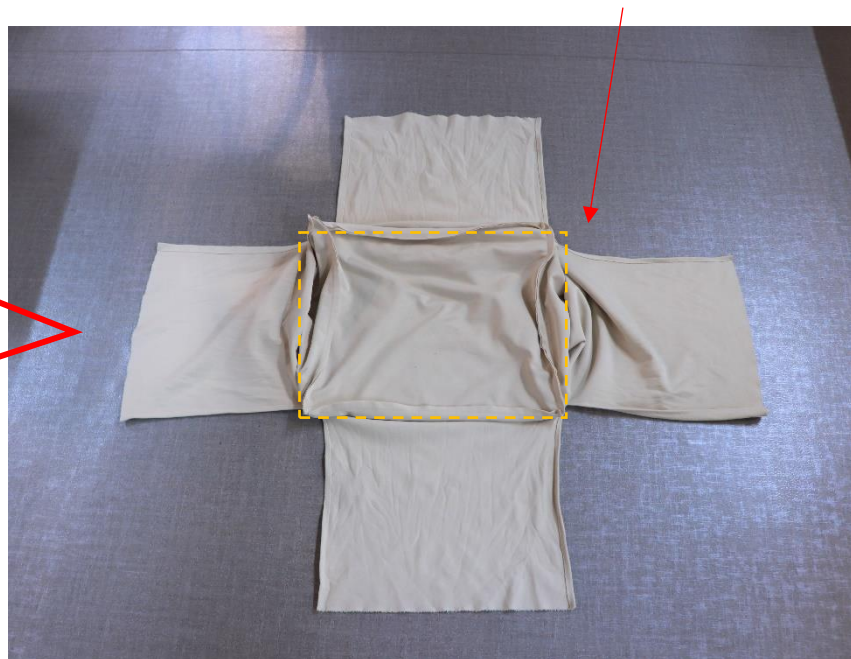
①	兜(かぶと)	頭を守るもの
②	*前立て(まえだて)	兜に付けるもの
③	面頬(めんぽお)	顔面を守るもの
④	胴(どう)※袖 (そで) 付き	胴体を守るもの
⑤	籠手(こて)	手や腕を守るもの
⑥	佩楯(はいだて)	太ももと膝を守るもの
⑦	臑当(すねあて)	膝からくるぶしを守るもの
⑧	腹帯(はらおび)	腰回りに着けるもの
⑨	鎧櫃(よろいびつ)	収納袋に入れた甲冑等をしまうもの
⑩	鎧立(よろいたて)	甲冑を展示する際に使用するもの
⑪	収納袋 (しゅうのうぶくろ)	甲冑等をしまうもの

それでは、片付けていきましょう。

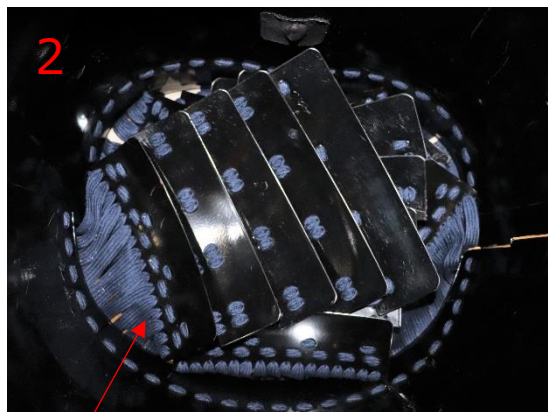
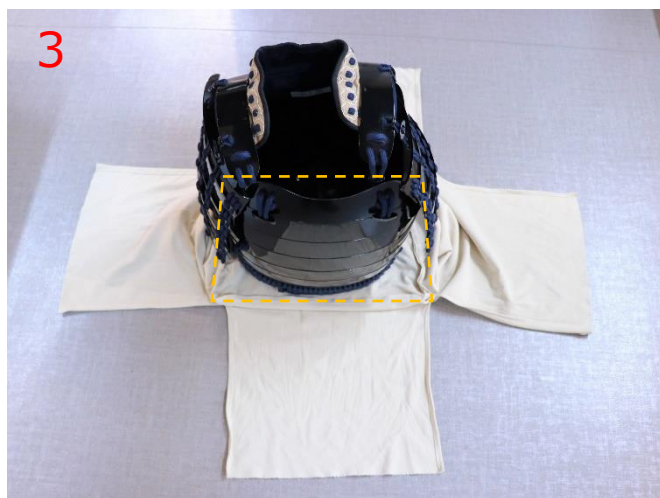
① 収納袋を裏返しにして、写真のように置きます。

！ しっかり四角形になるように、袋の底の角を整えると良いです。

まず番号札を取り、
袋を裏返して、
ほこりやごみを
払ってから
行ってください。



② 袋の中央に胴を置きます。



草摺(くさずり)

1. 胴は必ず写真のように持ってください。
片手で持ったり、引きずったりしないでください。
2. 袋の中央に胴を置いたら、写真のように
草摺部分を胴の中にしめてください。
★順番に隣から重ねていくと綺麗に収まります。
3. 中央の四角形の中におさまるように置いたら
OKです。

③ 佩楯を胴の中に入れます。



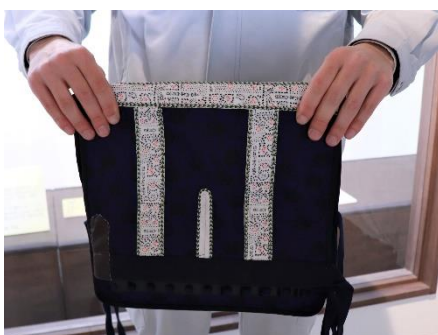
佩楯をこのように持って



半分に折ります。



さらに布地部分を折ります。



裏はこのようになります。



垂れている紐を写真のようにぐるぐる巻きます。



佩楯を胴の中に入れます。

★ 胴を正面から見て、**左側**から入れるようにしてください。

以後、**他の備品も左側**から入れます。



このように入れます。

④ 臑当を胴の中に入れます。



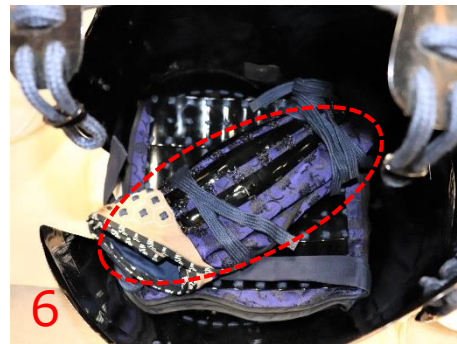
同じ面を重ねて



三つ折りにします。



垂れている紐を写真のようにぐるぐる巻きます。



写真のように斜めに入れます。

⑤ 籠手を胴の中に入れます。



半分に重ねて



半分に折ります。



垂れている紐を写真のように乗せます。

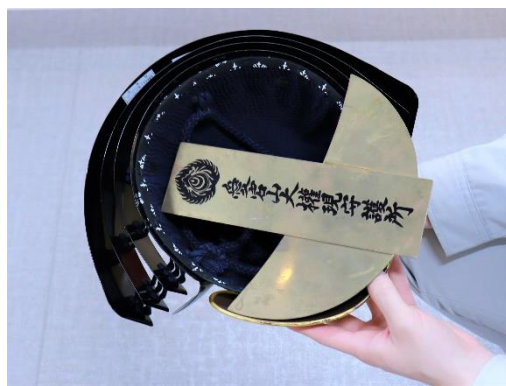


写真のように臑当と交差するように斜めに入れます。

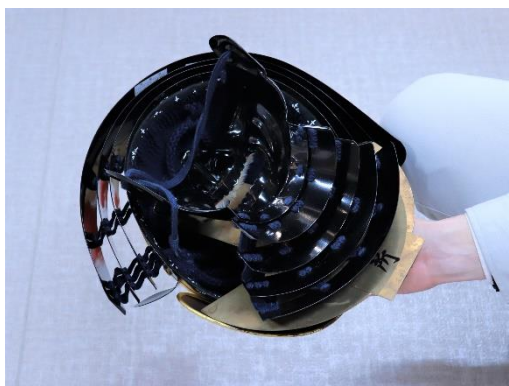
⑥兜・前立て・面頬を胴の中に入れます。



紐を兜の中に入れます。



前立てを兜の中に入れます。



面頬を兜の中に入れます。



兜を逆さまにしたまま
胴の中に入れます。

！！ここでチェック！！

- ①甲冑を入れる袋の番号 ②胴体内側の胸部分の番号 ③兜の裏の番号
全ての番号が一致しているか、確認してください！！



①



②



③

⑦腹帯を胴の中に入れます。



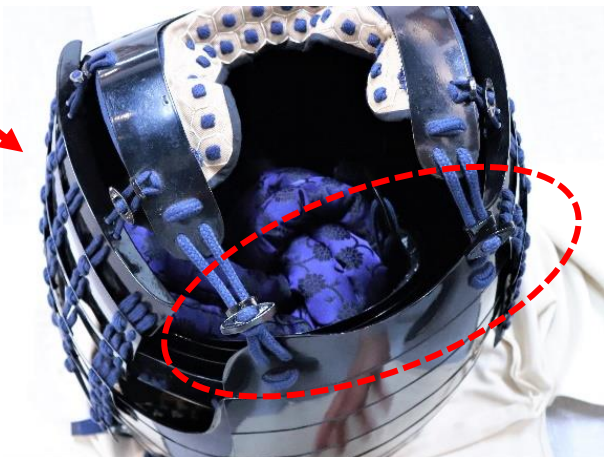
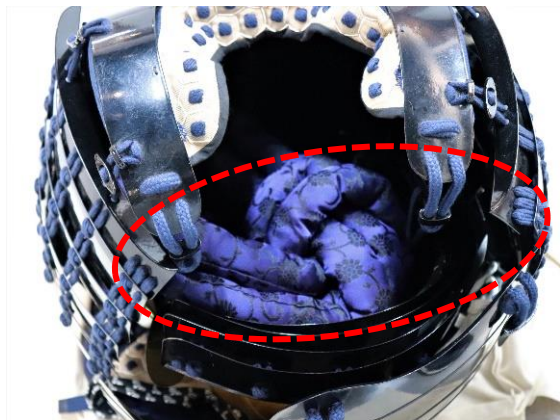
腹帯を写真のように半分に折って結びます。



このようになります。

備品は全て入れ終わりました。あと少しです！

⑧留め具をします。



⑨収納袋を結びます。



1

この状態から



2

両端を持って



3

2 回結びます。



4

また両端を持って



5

2 回結びます。



6

胴の正面の右上に札を移動させたら完成です。